

「幌向湿原固有種植生の再生・環境保全・活用事業」  
～「ホロムイ七草」の再生と活用による持続的活動をめざして～

2012・11・20 第3回 北海道e-水フォーラム



特定非営利活動法人 ふらっと南幌

<http://www.flat-nanporo.com>



私達の主な活動対象フィールド: 幌向湿原の名残りの残る夕張川河川敷泥炭採取跡地周辺



夕張川敷泥炭採取跡地：  
「ホロムイ七草」再生・育成  
試験候補地のひとつ

地質図凡例	
現世	小河川平野堆積物
	扇状地堆積物
	自然堤防堆積物
	後背湿地堆積物
	A 砂
	F 砂
	S 砂、砂質シルト
	PL 低位泥炭
	Pm 中間泥炭
	Ph 高位泥炭
	P 埋積泥炭
	G 粘土、シルト

# ◇「ホロムイ七草」:ホロムイを冠する7種の湿生植物

- タ張川流域の幌向原野は、明治～大正時代にかけて湿生植物研究の重要な調査拠点であった。
- 昭和3年(1928年)に館脇操博士が発表された『石狩幌向泥炭地植物』では、幌向原野で発見された7種の湿生植物種にホロムイの和名が冠されているが、1つの地名が7種もの植物に命名されるケースは稀なこととされる。



ホロムイリンドウ



ホロムイイチゴ



ホロムイクグ



ホロムイコウガイ



ホロムイスゲ



ホロムイソウ



ホロムイツツジ

○近隣の越後沼湿原では、過去にホロムイリンドウを除く6種の記録があるが、現在はホロムイクグとホロムイスゲの2種、夕張川ではホロムイリンドウ、ホロムイスゲの2種が残るのみというのが実情！

網	科名	種名（環境省目録）	重要種		確認箇所			
			環境省	北海道	夕張川	美唄湿原	月ヶ湖湿原	越後沼※
離弁花類	バラ	ホロムイイチゴ				○		
合弁花類	リンドウ	ホロムイリンドウ		希少種(R)	○	○		
	ツツジ	ホロムイツツジ(ヤチツツジ)	絶滅危惧ⅠB類(EN)			○	○	
単子葉類	ホロムイソウ	ホロムイソウ						
	イグサ	ホロムイコウガイ	絶滅危惧ⅠB類(EN)	絶滅危急種(Vu)				
	カヤツリグサ	ホロムイクグ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危急種(Vu)				○
		ホロムイスゲ(トマリスゲ)			○			○

※『江別市越後沼湿原における環境調査及び植生復元実験に関する報告書』越後沼研究会 2008年4月より引用

○今後の採種・播種～育苗に基づく栽培試験を可能にする前提条件となる「ホロムイ7草」全ての現存確認が必要！

○中でも、花がきれいな「ホロムイリンドウ」と花が可愛らしく、実が美味で活用・加工の可能性の高い「ホロムイイチゴ」を、話題性の高いシンボルの品種として、今後の取組み活動の広がり期待！

○専門家の助言に基づいた環境のワイズユースの視点から、幌向湿原固有種植生に関して、「再生・保全」と「栽培」の両面から取組み、後者の「加工・活用」による収益を持続的活動の財源に！

特に「ホロムイイチゴ」に関しては、生育環境条件の研究による安定した栽培技術の確立とともに、地元のお菓子屋さんやレストランの参画によって、南幌らしい特徴ある食材として、「お菓子類」や「ジャム」、「リキュール」、「鹿肉料理のソース」等への加工を研究し、魅力的で話題性のある地元の名物として商品化したり、フットパスを歩きに来た人に楽しんでもらうことによって、地域の活性化につなげて行きたい！  
⇒ 北欧ではクラウドベリーと呼ばれ、「ベリーの王様」として親しまれ、多様な加工品があり、海外観光客の土産品としても人気が高い！



フィンランドでは、2ユーロ硬貨や切手にも使われている程、代表的なイチゴです！

## 今年度実施した主な取組み:

- ・5月:スタートアップイベント:フットパス・ウォーキングと組み合わせて、幌向湿原固有植生再生・保全・活用の取組みを発信:参加者43人
  - ・6月:具体的活動のための準備・資料収集～専門家との打合せ等
  - ・7月:美唄湿原における種子・サンプル採取の手続き  
～昨年採種サンプルの播種・育苗試験開始
  - ・8月:美唄湿原における種子・サンプル採取(9名参加)  
～組織培養試験開始  
サロベツ湿原・松山湿原現地調査:参加者4名＋現地協力者4名
  - ・9月:ニセコ鏡沼現地調査:参加者4名
  - ・10月:組織培養実験視察・勉強会 参加者9名  
東海大学農学部によるミズゴケ栽培試験地視察:参加者4名
- \* 各月例フットパス・ウォーキングで、参加者に取組み状況報告・発信  
⇒5月(22名参加)～6月(豪雨で中止)～7月(36名参加)～8月(27名参加)  
～9月(7名参加)～10月(42名参加)～11月(\_\_\_\_名参加)

2012年8月2日 & 13日の2回にわたって、北海道農業研究センターから許可を頂いて、美唄湿原でサンプル採取：ホロムイイチゴ、ホロムイリンドウ、ツルコケモモ ⇒ 組織培養試験

## 湿原の立ち入りについての注意

美唄湿原は石狩川流域に現存する貴重な高層湿原で環境省により日本の重要湿地にも選定されています。湿原は既に希少となった動植物の生育場所であるとともに我々のかけがえのない財産でもあります。ここでは湿原保全、湿原環境に関わる様々な研究が行なわれています。

立ち入りを希望される方は下記にご連絡下さい。

北海道農業研究センター（美唄）

電話 01266-3-3005



8月8日、9日とサロベツ湿原センター周辺、幌延のビジターセンター周辺の木道沿いで生育環境条件を観察：特に「ホロムイチゴ」は、ミズゴケ混じりのかなりの湿潤状態の日陰にならない地帯に群生。





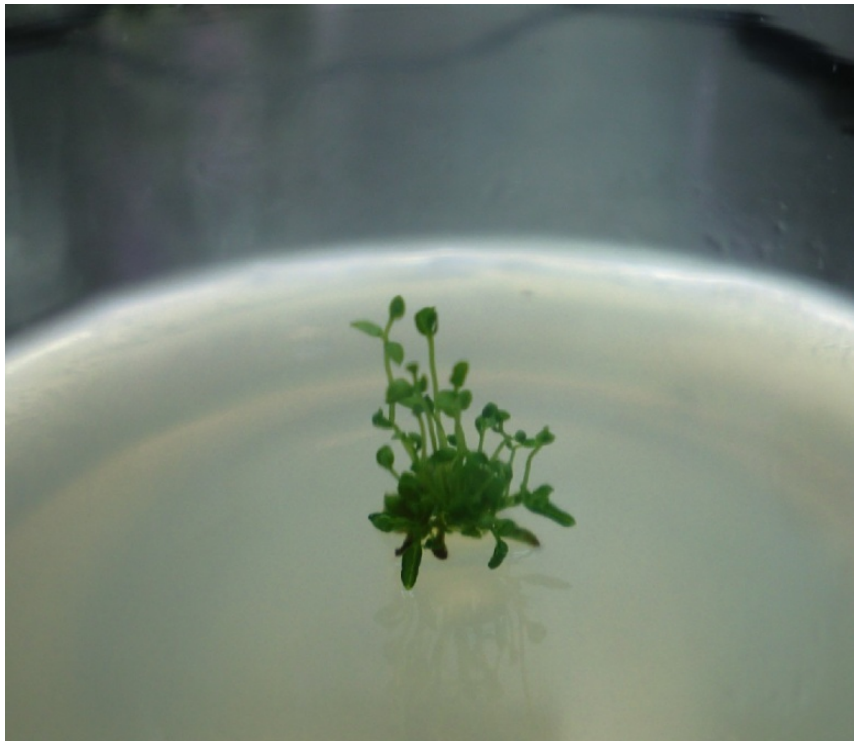
8月9日、美深松山湿原で、ホロムイイチゴの生育環境を観察：水際の湿潤状態の場所に多く分布



9月25日鏡沼現地調査: 夏にはホロムイイチゴの群生が見られる場所として知られているが、この時期には主役交代でツルコケモモが支配している



採種サンプルによる組織培養：試験栽培用の苗の確保に向けての試み[赤平オーキッド(株)のご協力]



10月26日 東海大学農学部応用植物科学科  
星良和准教授の研究室のミズゴケ栽培実験  
の視察:実験棟・水田での栽培状況



# フットパス・ウォーキングと組み合わせて幌向湿原固有種植生再現の取組みを発信





総勢43人の参加者：植生再生試験候補地の現況を視察し、農家との交流の後ワークショップで意見交換

◆当初予定していたが変更した内容:

④「種子精選・播種・育苗・管理」

⇒昨年採取分、美唄湿原からの採種サンプル等による試験を行ったが想定通りに発芽せず、今年度は断念

⑤「固有種植生の復元・再生のためのビオトープ形成」

⇒各自生地の生育環境条件の観察から、多様な環境での育成～栽培には「ミズゴケ」の確保が必要と判断し「ミズゴケ栽培」の可能性の検討に方向性修正

⑥「試験栽培地の観察・維持・管理体験を含めたフットパス・ウォーキングの実施」

⇒⑤との関連から、活動情報の発信と共に、コース設定を変更して、農家との交流を中心にして実施

# 今年度成果と今後に向けて

①懸案だった「ホロムイ七草」全ての現存を確認！

⇒今後、七種類全ての採種・播種・育苗に挑戦

②中でもシンボルの存在の「ホロムイイチゴ」に関して、採取サンプルの「組織培養」による試験栽培苗の確保の目途が付いた！

⇒次年度は、今年度準備した苗を1000株単位で、NPO関係者・支援者で手分けして試験栽培する「里親制度」の実施を予定

③「ホロムイ七草」試験栽培の環境基盤となるミズゴケ栽培に関して、今後、東海大学との協力関係で進められる可能性が確認出来た！

⇒次年度は、東海大学農学部応用植物科学科 星良和准教授の研究室との協力関係の中で栽培実験を試行

**\* 多くの皆様の御支援・御協力・御指導に深く感謝致します！**